

● 科学史と教育の研究会

さらに自由闊達な情報交換・研究のオープンな研究組織をめざして

多久和俊明・渡辺規夫・加藤浩幸

ここ3年間毎月東京で、「板倉聖宣の科学史研究と科学教育研究を学ぶ会」を開催してきました。この会をもとに日本科学史学会と仮説実験授業研究会の有志で自由闊達に交流研究する「科学史と教育の研究会」をつくることにしました。「科学教育」「授業科学」を「科学史研究」の成果を生かして、情報交換したり、研究しています。小学校から大学までの「授業」を科学にすることをめざします。この「科学」には、「社会の科学」も含まれます。「認識論」や「発想法」や「研究組織論」なども含めて広く研究交流します。この研究会は科学史学会木本会長の提唱する自由な小委員会の目的と方向性等が一致するものと考えます。科学史学会と仮説実験授業研究会などこれまで情報交換や研究交流があまりなかったもので、こういう組織が活発に活動すれば、専門家とアマチュアの交流も活発になるでしょう。アマチュアというのは、科学史研究の非専門家というぐらいの意味です。アマチュアには、すべての非専門家を含んでいると考えますので、アマチュアの開拓ははじまったばかりです。未来の科学教育や科学啓蒙だけではなく、科学史研究の新しい意義が発見され、発展させられるかも知れません。

今から57年前の「科学史通信」には、次のように記されています。私たちの考えと根底でつながると思い、紹介します。今日読んでも、その内容はまったく古びていないどころか、いまだに未来の問題のままであるように思いますが、どうでしょうか。そういうことも含めて自由闊達に話し合いたいです。

『教育と科学史の研究会』を発足させよう 「科学史通信」No58, 1962年1.2月合併号

昨年の年会には科学史と教育に関するシンポジウムが開かれ、多数の講演と活発な討論がおこなわれました。そして今年九州で開かれる年会にも科学史と教育に関するシンポジウムがおこなわれることが予定されています。

しかし、科学史と教育の問題はきわめて多様な問題を含んでいるので、一度や二度のシンポジウムでは、なかなか根本的な問題をとりだして、具体的な前進をはかることは困難なように思われます。

そこで、今回みんなの協力によって「科学史と教育の研究会」を作って日頃から一つ一つ研究をつみ重ねて行きたいと考えました。このような分科会を作りたい、という声はこれまでもさまざまな人びとからいわれていましたが、いつも立ち消えになりました。その理由の一つは、科学史と教育の関連の問題を専門的に研究する立場にある人がほとんどなく、そのような分科会のまとめ役になる人がいなかったからでしょう。また、もう一つに理由は、学会の分科会というもののかたくなるしきがあげられると思います。専門的な研究者がほとんどいないのですから、研究の成果を発表する機会だけを作っただまっていたのではなかなか成果の発表もしづらく能率もあがらないでしょう。しかし一方、科学史と教育に関して、もっぱら研究するということは困難でも、これについて着実に研究している人びと、あるいは研究しようとしている人びとは本学会の中に沢山おります。問題は

この人々の研究が組織的になされていないために、しばしば徒勞におわっていることだと思います。

ですから、科学史と教育の問題に深い関心をもっている人びとが協力して研究をすすめられるような研究会を作ることがこの上なく大事なことだと思います。この問題をもつばら研究できる余裕のある人はごく少数にしろ、この問題にいくらかの力をさけるし、また、さこうとしている人びとは決して少なくないのですから、共同で研究プランを立て共同で研究を進めようというわけです。

みんなの関心をもっている問題をだしあって調査を手わけして行い、他人の研究成果をどんどん自分のものとしていけるような会合にしたいと思います。研究成果はどんな細かなことでも、一つ一つ「科学史通信」にのせて、研究と討論を全国にひろめたらよいと思います。

この提案が前と同じようにうやむやにならないよう具体的な提案でしめくりたいと思います。はじめの中は初等、中等教育の問題を中心として話題を集中させ、月に2回ぐらい、のちには月1回ぐらいの会合を平日の夕方、学会事務局でおこなったらよいと思います。そして、さらに具体的には第1回の会合を別記のように開きたいと思います。なにとぞ、お知り合いの方々をおさそいの上、ご出席ください。

さらに、「準備会:2月13日(火)科学史学会事務局。(参加者8名、連絡のあったもの6名)」と記されていて、少なくとも14名が準備会に関わっていたことがうかがえます。さらに、「科学史通信」No64(1962年11・12合併号)に、「すでに5回の会」をもったことと、12月15日(土)5時から、忘年会をやることが連絡されています。

このような活動が58年前にあつて、その中心に板倉聖宣さんがいました。この直後、仮説実験授業の研究がはじまり、その後順調な発展はなかったと思いますが、詳しい経過はよくわかりません。仮説実験授業誕生の1年前にはこんな動きがあつたことはとても意味があると思います。また、現在の私たちはそういう歴史からも学び、科学教育・授業科学と科学史研究の自由な研究組織をつくりたいと考えています。

興味のある方の参加を心からお待ちしています。

2月15日、今年度最後の3月21日は「平林 浩さんの講演会」です。

(2020年度も第3土曜日です)

4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、(8月はお休み)、9月19日、

10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月20日、3月20日

※ お昼の用意をしてきてください。雑談しながら食べます。近くにコンビニあり。

※ 資料ある方は10部用意して下さい。資料名と発表希望時間は前日までにお知らせください。

※ 会場は仮説社・山猫ラウンジです。(JR山手線・地下鉄・巣鴨駅から徒歩2分)

多久和俊明 自宅 0480 38 3264 携帯 08065989477 mxrhp118@yahoo.co.jp

参加費 300円 (3月21日のみ2000円)

世界・日本・個人をネット ZOOM でつなぐ新しいカタチの研究会

● 科学史と教育の研究会

さらに自由闊達な情報交換・研究のオープンな研究組織をめざして

多久和俊明

ZOOMによる「科学史と教育の研究会」です。東京などでの研究会には参加したくてもなかなかできないという人たちのために、ネットの ZOOM を使用して世界と全国と個人をつないだ研究会をぜひやりたいというフクシマの人たちの強い思いで実現しました。

以前はスカイプでやっていましたが,ZOOM は比べものにならないほどすぐれています。ウソだと思う方は一度のぞいてみるだけでも,ZOOM 会議の意義がわかると思います。

内容や目的は実際・リアルの「科学史と教育の研究会」と基本的に同じです。こちらの研究会はインターネットを使って、「日常的な情報交換」「研究討論」等も活発に行っています。こちらの方にも参加して「日常的な情報交換」や「縦横無尽な研究」をすすめてみませんか。ふだんは会えない全国のいろいろな方の研究や話が聞けて、とてもいいカタチで進んでいます。資料なしの参加も歓迎です。

2月2日(日) 8:50~12:00

定例日は決まっていません。2か月に1回,日曜日が原則といえるかも知れません。

来年度の予定(現時点でのものです。『たのしい授業』,日本科学史学会ホームページで確認してください。)

4月12日(日)

6月7日(日)

8月30日(日)

10月11日(日)

12月13日(日)

2021年2月7日(日)

- ・資料は,3日前の木曜日までに,添付送信してください。
- ・事前に申し込まれた資料にしたがって,発表と検討をしていきます。
- ・発表される方は,「何を」,「どこを」検討してほしいのかを明確にして下さい。時間の制約があるので焦点をしばってください。
- ・参加される方は事前に資料を読んでおいてください。

※ 参加費 0円

※ 資料を募集します。

※ ZOOM のやり方や使い方等については佐藤正助さんがやさしく教えてくれます。

※ 興味のある方は,佐藤正助さん makke@extra.ocn.ne.jp に連絡して下さい。

情報交換交流研究メーリングリスト

● 科学史と教育の研究会

自由闊達な情報交換・交流・研究をめざして

多久和俊明

リアルの「科学史と教育の研究会」とネットの ZOOM の「科学史と教育の研究会」の 2 つの研究会を円滑に進めるための「科学史と教育の研究会」のメーリングリストです。日常の情報交換・交流・研究や ZOOM の「科学史と教育の研究会」の基盤で、もし関心のある方はこの機会に、「東京でやっているリアル研究会」と「ネット ZOOM 研究会」、そして「メーリングリスト」に参加されると多面的にいろいろな交流研究活動が促進すると思います。科学史と教育に関心のある方は、日本科学史学会の方も、そうでない方もぜひお気軽に参加ください。

※ 参加費 0円

※ メーリングリストについては佐藤正助さんがやさしく教えてくれます。

※ 興味のある方は、佐藤正助さん makke@extra.ocn.ne.jp に連絡して下さい。